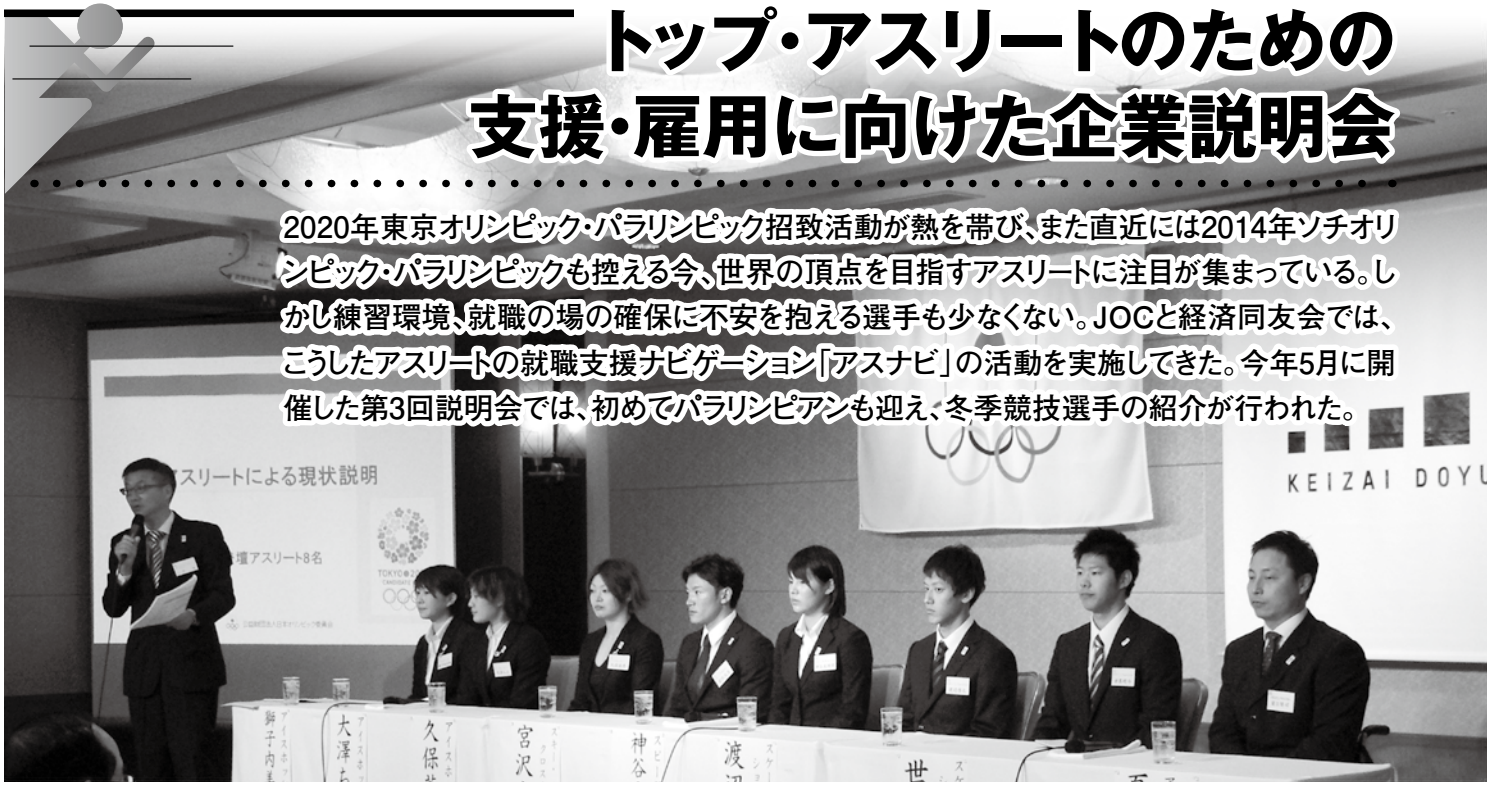
第３回「One Company, One Athlete」 5月14日開催

トップ・アスリートのための支援・雇用に向けた企業説明会



2020年東京オリンピック・パラリンピック招致活動が熱を帯び、また直近には2014年ソチオリンピック・パラリンピックも控える今、世界の頂点を目指すアスリートに注目が集まっている。しかし練習環境、就職の場の確保に不安を抱える選手も少なくない。JOCと経済同友会では、こうしたアスリートの就職支援ナビゲーション「アスナビ」の活動を実施してきた。今年5月に開催した第3回説明会では、初めてパラリンピアンも迎え、冬季競技選手の紹介が行われた。

冬季オリンピック・パラリンピックを目指すトップ・アスリートが集結

トップ・アスリートの就職支援ナビゲーション「アスナビ」は、これまで12社で15名の就職を実現してきた※。経済同友会会員向けの今回の説明会は、2010年10月、12年2月に次ぐ3回目の開催である。14年ソチオリンピック・パラリンピックを前に、冬季競技のトップ・アスリートが登壇した。

会の冒頭、前原金一副代表幹事・専務理事は、「今回初めて、パラリンピアンの方もご紹介できることとなった。この説明会を機に、一人でも多くの選手の練習環境向上、採用企業の活性化につながるよう期待したい」と挨拶した。

続いて登壇した市原則之JOC専務理事は、経済界・スポーツ界が一体となって目指す2020年東京オリンピック・パラリンピック招致を視野に入れつつ、アスナビの意義について語った。「選手の大舞台での活躍があってこそ、スポーツの力は夢と感動を与える。そのためにも世界を目指すトップ・アスリートが将来への不安を抱えることなく競技生活に集中できることが大切である。ぜひ皆さまのご協力を賜りたい」。

会では、元スピードスケート選手でアルベールビルオリンピック（1992年）銀メダリストの黒岩敏幸氏が、企業に在籍しつつ五輪を目指した自身の競技人生を振り返り講演を行った（次頁参照）。

一方、説明会を通じてアスリートを採用した、東海東京証券の永森利彦名古屋戦略部長による発表も行われた。

また、新浪剛史副代表幹事・東京オリンピック・パラリンピック招致推進委員会委員長から、ローソンにおいてスピードスケートの住吉都選手、アイスホッケーの平野由佳選手の2選手を採用することを初めて発表するというサプライズもあった。

最後に、冬季オリンピック・パラリンピックを目指すトップ・アスリートが現状と将来展望をスピーチし（詳細はP19、20）、懇親会も開催された。

前原金一 副代表幹事・専務理事

市原則之 JOC専務理事

住吉都選手、平野由佳選手とともに壇上に立つ、新浪剛史副代表幹事

※6月25日現在、15社19名採用決定

基調講演

トップ・アスリートが安心して競技に取り組める環境支援を

黒岩 敏幸 氏

JOCゴールドプラン委員会委員／元スピードスケート選手
（1992年アルベールビルオリンピック500m銀メダリスト）

アスリート採用が生み出す社内の一体感

現役の選手たちと話すと、彼らがさまざまな面で悩みを抱えていると感じます。私たちが現役だったころとは、環境が大きく変わっています。今日はその変化を中心にお話しします。

スピードスケートの選手だった私は大学を卒業した1991年、ミサワホームに就職しました。入社後まず印象的だったのが、当時の社長の言葉でした。「3年間頑張ってください。そして、30歳までに方向性を決めてください」と。最初は新人研修や地方支店などにも行きましたが、入社１年後にはアルベールビルオリンピックを控えていました。「とにかく時間がありません。練習に専念させてください」と私は社長に頼みました。

社長は快諾してくださいました。ただ、「会社の方針としては、できるだけ黒岩君には会社に来てもらい、社員と接してスポーツに対する意気込みを伝えてほしい。皆で何かを成し遂げるという気持ちが、今、欠けているから」とはっきりおっしゃいました。私は、少なくとも週2回は出社して、いろんな人とお話をさせていただきました。

すると、「黒岩、頑張っているな」「応援したいな」といった社内の声を風の便りで聞くようになり、とてもうれしく思いました。会社の一体感の醸成、社長の狙いはここにあったのです。

会社のサポートもあり、アルベールビルでは銀メダルを獲ることができました。社長に報告に行くと、「今後は営業をやってくれ。100棟は売れるから」と言うのです（笑）。私は長野オリンピックを目指している時期で、大変驚きました。長野にはどうしても出たいということで競技を続け、結果8年間、ミサワホームに在籍しながら現役を続けました。

長野オリンピックのころ、私は既に30歳近くで、清水宏保、堀井学といった次代の選手が台頭していました。しかし、「長野に出る」という思いだけはブレずに、成し遂げることができました。メダル獲得は難しいということは分かっていても、同じ社員として支え続けてくれた会社の支援があったからです。

“ブレない目”が証明する我慢強さ、強い意志

あらためて今、現状のスポーツ界の環境を見ると、非常に厳しいといえます。メーンスポンサーのほかアザースポンサーを付ける選手もいますが、支援は物品提供のみといった話もよく聞きます。競技レベルを上げるために何十万、何百万円をなんとか工面しようと苦心している選手が多数います。安心して競技に取り組めていないのだなと思うことが、選手と接していて多々あります。その意味でも、このような就職支援のお話は、非常にありがたいことだと感じています。

では、選手の何を見て判断するべきか。それは、“目がブレていないかどうか”ではないかと、私は思うのです。

私は大学のコーチとして若い人を多数見ています。我慢ができない、すぐに疲れたと言う、知ったかぶりをする、といった人もたくさんおり、「継続して努力しなさい」と言い続けています。ただ、その中でも勝ち抜いて、トップレベルとなるアスリートはトレーニングを通じて、我慢強さ、人を引っ張るリーダーシップを備えています。

その点、今日ここに集まった選手たちは皆、ソチに何としても出たい、勝ちたいという、強い目を持っています。人前で話すことには不慣れな部分もあるかもしれませんが、肉体の限界に挑戦し続ける彼らの強い意志を、ぜひ評価していただければと思います。

トップ・アスリートと企業がWin-Winの関係に

荒木田裕子JOC理事から「アスナビ」の説明があった。「本説明会のコンセプトは『One Company, One Athlete』。一つの企業に一人のトップ・アスリートの雇用または活動支援を呼び掛けることで、アスリートの生活環境安定のみならず、採用企業の社員に夢や希望を与え、社内の一体感を醸成するという、Win-Winの関係構築を目的としている。ぜひ応援いただき、一体となって共に感動を分かち合ってもらいたい」と語った。

採用企業の活動とメリット

- グローバル企業にとっては、日本国内のみならず、グローバル拠点を含めた社員の一体感の醸成に役立つ。
- 競技を通じた諦めない心、世界へ挑戦し続ける姿勢が社風づくりに影響。
- 所属企業としてメディアへの露出により高い広告効果を生む。

採用企業紹介

東海東京証券では、近代五種の黒須成美選手を採用した。近代五種は、射撃、フェンシング、水泳、馬術、ランニングの五種目というまったく異質の種目に挑戦する競技。採用の理由は「近代五種の持つイメージが自社に一致し、黒須選手の懸命さが社員にも良い刺激を与える」と永森利彦名古屋戦略部長。黒須選手は、ロンドンオリンピックでは落馬してしまうが、競技を諦めなかった。近代五種は最後の競技だったため、ロンドンオリンピックの最後のゴールを飾った選手として注目を浴びた。オリンピックでの応援を含め、社員の一体感醸成に大きく寄与した。この影響をきっかけに、二人目のトップ・アスリート桜井美馬選手(スケート・ショートトラック)の採用も決めた。

永森利彦
東海東京証券
名古屋戦略部長

トップ・アスリートによるプレゼンテーション

獅子内 美帆

アイスホッケー
20歳、北海道釧路明輝高等学校卒業。ソチオリンピック日本代表候補。

高校卒業後は就職せず、ジムでアルバイトをしながら練習を続けてきました。そして、日本代表に選ばれ、オリンピック出場のかかった大会にも参加し、勝利できました。しかし、その矢先、ホームリンクが閉鎖されました。昨年のチームスポンサーとの契約終了に続き、練習の場も失ったのです。今は苫小牧のチームで練習していますが、安心して競技に専念できるよう、すがる思いでお願いに来ました。

アイスホッケーは各国の実力が拮抗しており、メダルも夢ではありません。私たち若い世代がチームを引っ張り、ソチ、平昌で最高のパフォーマンスができるよう、頑張りたいです。

大澤 ちほ

アイスホッケー
21歳、苫小牧駒澤大学2014年卒業見込み。ソチオリンピック日本代表候補。

アイスホッケーを続けながら、地元北海道の大学に通っています。卒業後はアルバイトをしながら、競技を続けようと考えていました。先輩たちを見て、仕事をしながら競技を続けることは難しいと感じていたからです。競技を続けることを断念した選手を何人も見てきました。しかし今回、アスナビの制度を聞き、企業の方の支援を頂きつつ、競技に専念できればと思いました。もし採用実績ができれば、進路を考える後輩たちにも道が開け、女子アイスホッケー界の発展につながります。アイスホッケーはソチオリンピック出場権を得て、認知度も上がってきました。微力ではありますが、スポーツを通じて企業に貢献できればと思っています。

久保 英恵

アイスホッケー
30歳、浅井学園大学短期大学部卒業。ソチオリンピック日本代表候補。

４歳からアイスホッケーを始め、13歳から日本代表に選ばれるようになり、オリンピック出場という夢が目標に変わりました。その後、一度引退しコーチ業に励んでいましたが、女子サッカー「なでしこジャパン」の活躍に感化され、夢は追い続ければ必ずかなうと信じて１年半前に復帰することにしました。今年２月の最終予選では、２ゴール３アシストの成績を残すことができ、ＭＶＰをいただきました。ベテランの一人として、チームを引っ張っていくことが私の責任だと考えています。ソチオリンピックに向け、トレーニングやケアに時間を費やしたいです。どうぞお力をお貸しください。

第３回「One Company, One Athlete」

神谷 衣理那

スピードスケート
21歳、白樺学園高校卒業。2012年W杯長野大会優勝、カルガリー大会15位。

４歳からスピードスケートを始め、高校卒業後２年間、仕事に就きながら技術を磨きましたが、思ったような成績が残せませんでした。それでもオリンピックを目指したい気持ちが強く、昨年の春、地元に帰り新たな環境で取り組むことにしました。それが結果に結び付き、W杯に３年連続で出場、念願だった世界距離別選手権への出場もかないました。しかしまだまだ通過点です。最大の目標はオリンピックでメダルを獲ることです。そのために試したいトレーニング、機器もありますが、手が回せないのが現状です。思いっきり競技に集中し十分な準備ができるよう、ご支援をお願いいたします。　※開催後に採用決定

宮沢 大志

スキー：クロスカントリー
21歳、早稲田大学2014年卒業見込み。12年W杯11位(昨季男子最高順位)

新潟県十日町市に生まれ、クロスカントリースキーを13年続けてきました。W杯では過去、最高11位という成績を残すことができました。

オリンピックの舞台は未経験ですが、今まで通りやるべきことをやりたいと思います。常日ごろから、「誰もが予想していない成績を残すこと」をモットーにしています。日本のメダル獲得がないクロスカントリースキーで、新しい歴史を作りたいのです。

ソチだけでなく平昌での金メダルを見据えています。ただ、練習費100%自己負担の現状から、資金面の支援がどうしても必要になります。どうかお力を貸してください。

渡辺 啓太

スケート：ショートトラック
21歳、阪南大学2014年卒業見込み。2013年全日本選抜選手権大会優勝。

地元の埼玉では練習環境が十分でなく、群馬や東京のリンク、あるいは陸上練習で補いました。より多くの練習を積むべく、長野オリンピック金メダリスト・西谷岳文さんを指導されたコーチのいる阪南大学に進学、世界選手権5000mリレーでは４位になりました。大学生活での主将経験や全日本での経験から、自分で考え行動することの大切さ、人に相談することの大切さを学びました。未熟ながら、入社の暁には諦めない気持ち、地道な努力、行動力を、コミュニケーションを通じて伝えていきたいと思います。またメディア露出も多少ありますので、広報宣伝活動でも貢献したいと思います。

世界 明斗

スケート：ショートトラック
21歳、中京大学2014年卒業見込み。2012年W杯11位。

珍しい名前なので、一人でも多くの方に覚えていただけるとうれしいです。また、非常に迫力ある競技・ショートトラックも、ぜひ注目してください。

試合に勝つために、現在多くの大会で表彰台を独占する韓国に単身で渡りました。辞書を片手にジェスチャーを交え、指導者とコミュニケーションを取り、新しい技術、武器を得てきました。

もう一つ、私の強みは物事を広い視野で見て、計画的に行動することです。練習でも課題を明確にし、克服する方法を考え、実践してきました。

行動力と向上心を活かしソチ、平昌でメダルを獲ることで、職場の活性化に努めたいと思います。

夏目 堅司

パラリンピアン／アルペンスキー
39歳、日本スポーツ・レクリエーション専門学校卒業。ソチパラリンピック内定。

チェアスキーという用具を使って、アルペンスキー競技をしています。30歳で脊椎を損傷するまでは、スキーインストラクターをしていました。スキー経験に加え周りからの支援もあり、チェアスキーを始めました。足腰を使わない競技のため、長い年月現役を続けられます。これは障がい者スポーツの一つの特徴でもあり、海外には50歳超のプレイヤーもいます。障がい者スポーツもアルペンスキーも、国内での知名度、アスリートへの評価がまだ低いのが現状です。しかし、パラリンピックでの活躍を通じて、車いすテニスの国枝慎吾選手のような発信、貢献をしていきたいと考えています。　※開催後に採用決定

●トップ・アスリート支援についてのお問い合わせ先

JOCキャリアアカデミー ■e-mail career@joc.or.jp ■TEL 03-5963-0355

※電話受付時間は月曜の午前10時から午後6時まで